

5. 松原公園界限

住吉神社～松原公園

住吉神社は日本中に勧進されている有名な海人のための守り神だ。毎年7月27日が夏の例祭で、今年は丁度日曜日で別府の花火大会と同じ日になった。しかし、わたしが子どもの頃の賑わいは今では語り草でしかない。別府湾が宝の海と呼ばれていた時代は、漁師たちの羽振りも良かったので、この神社にも立派な御輿が寄進されていたし、わたしが小学校6年生の時には、大人が担いでも見劣りしないくらいの本格的な子ども御輿が寄進され、わたしも最初で最後の担ぎ手になった。それまでは法被を着て、大人御輿に賽銭箱を担いでついてまわり、海上渡御の時には飾り立てたお供船に乗せてもらうだけだったが、子ども御輿とはいえ担げるようになった時はうれしくて仕方がなかった。暴れ御輿で有名な住吉神社の神



住吉神社のご祭神は海面、中層、海底をそれぞれ司る3人の総称三筒男命様だが、ここにはさらに加藤清正（気長足比命）も合祀されている。社殿の左側には大きな椋の木があって、時期になると登って黒い実を取って食べたものだ。



鳥居をくぐった右側には神楽殿がある。昔は夏祭りの日は一日中、神楽が舞われたものだが、今では語り草になってしまった。この左奥には御輿のしまわれている蔵もあるが、中は見る事が出来ない。

っていった。初めのうちはそれでもトラックに乗せて巡行していたそうだが、今ではそれも見られなくなってしまったようだ。

松原公園は南部地区の中心的賑わいの場所で、映画館が3館もあり、正月などは映画を見終わった観客で溢れていた。春の温泉祭りの期間中は、朝見八幡社の御旅所が松原公園に造られ、大神輿がやってきて鎮座していたし、特設の神楽殿では

社 の 神 輿、わたし達も大人たちの真似をして暴れて見せることが出来た。

1970年代初めの大分臨海工業地帯の本格操業開始とともに、別府湾の環境汚染が始まり、宝の海が海の砂漠になってしまい、地域の漁師がいなくなったこともあって、いつの間にか御輿の担ぎ手もいなくな



松原公園の、昔、池があったあたりから南側を望む。正面に高崎山が見えている。子どもの頃は左奥のこげ茶のビルの辺りが東宝系の封切館、画面右側には東映系の封切館があり、左手前には、今の別府冷麺「六盛」が酒屋さんで、その隣が花月館という名前の洋画の再映館だった。



今は公衆電話ボックスのあるあたりが交番だった。公衆トイレはほぼ同じ場所だが、その向こうにあった池は今はない。

今はステージがある場所に2～3の遊具が置かれていた。その隣に大きなケージがあってオスのニホンザルが一頭だけ飼われていた。今から思えば可哀そうなことをしたもんだが、わたしを含めて子どもたちが毎日代わるがわる搾搾うものだから、すっかり人嫌いになり凶暴にもなっていた。そのサルのお世話をしていたおばちゃんを、わたしたちは「サルババア」と呼んでいた。

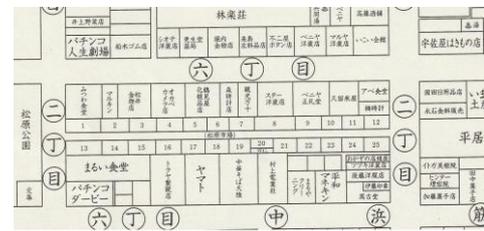
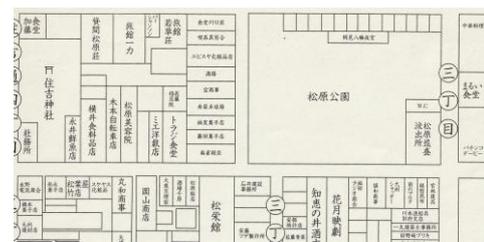


屋根のなくなった銀天街には往時の繁盛ぶりを偲ぶこともできない。遠く、奥にはまだ屋根のある銀座街が見えている。

連日御神楽が舞われていた。

戦前は立派な芝居小屋だったという松濤館は火事で建物は無くなっていましたが、簾掛けの芝居小屋がわかり、そこでは旅回りの劇団の芝居が見られたし、サーカスが象を3頭も連れてくることもあった。芝居の見物客に幕内や助六、名物の四角い押し寿司を売る屋台も多かった。今は御旅所も神楽殿もなくなったし、芝居小屋やサーカスの大きなテントを張っていた場所は今では分譲住宅が建っている。

正月や温泉祭りの時には見世物小屋が掛けられ、へびを食う娘がいたり、河童のサンちゃんの踊りなんて言うのがあったりで、怪しくも心をウキウキさせてくれたものだ。



当時のゼンリン地図には映画館もあるし、松原市場も書かれている。その頃は名前だけになっていた松濤館の前の小屋掛けの屋台店が並んでいたの見える。

サルをいじめていると、サルより怖い顔で怒るので、わたしたちはかえってそれを期待して、「サルババア」の姿が

見るとわざとサルを搾搾って逃げたものだった。

公園の南側にはコンクリート張りの大きな池があり、噴水もあったので、トンボの産卵場になっていて、シオカラトンボを何匹でも捕まえることが出来た。池に入れば、ミズカマキリやタイコウチを捕まえることが出来たし、夜になると公園の照明灯にガムシや時にはカブトムシも飛んできていた。それを捕まえに行くと、つい遅くまで遊んで親に叱られたものだった。

池の周りでは夏はビー玉、冬はパッチン（めんこ）で

遊んだ。わたしはビー玉は下手で取られるばかりだったが、パッチンはそれなりに腕を上げ、6年生の冬にはミカン箱いっぱいのパッチンを手に入れていたほどだった。

松原公園から流川まであったアーケード街「銀天街」は、老朽化で解体されてしまったが、わたしが子どもの頃は修学旅行生や新婚旅行のカップル、浴衣姿の観光客で、今の湯布院の湯の壺街道のようにごった返していたものだ。

松原公園に面してまるい食堂があり、家族で食べに行ったり、正月にはもらったお年玉を握りしめて、友だち同士でぜんざいを食べたりしたものだ。今の赤嶺和菓子店の横から永石通りまでは松原市場があつて、野菜、肉、魚、総菜、何でも売っていたが、残念ながら1992年の2月の松原大火で焼失したまま、復興せず、今はマンションが建っている。

浅草六区とまでは行かないが、観光都市別府の賑わいの中心だった松原公園も、今はすっかり閑散として、往時を偲べるものも無くなっている。



わたしが子どもの頃は芝居小屋松濤館は消失していたが、その跡地は松濤館と呼ばれて、掛け小屋の旅芝居一座が公演したり、木下サーカスが来たりしていた。今では分譲住宅地に様変わりして、昔の面影は亡くなったが。